

都道府県名	岡山県	事業実施主体	岡山県、岡山県小田郡矢掛町	地域再生計画名	矢掛・井原の人が行き交う元気な地域づくり計画
計画期間	平成30年度～令和6年度	評価責任者	矢掛町 建設課長、岡山県井笠地域事務所 地域農林水産事業部長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況	最終目標値の実現状況に関する評価		
	目標 1	矢掛町及び井原市の主要観光施設の年間観光入込客数の増加	基準年度	年度	中間実績	基準年度	最終実績							
	目標 1	矢掛町及び井原市の主要観光施設の年間観光入込客数の増加	751千人	H28	803千人	R3	459千人	826千人	R6	848千人	○	指標総数 達成数	新型コロナウイルス感染症の影響により観光入込客数が大幅に減少したことから、中間評価時点では目標値を下回っていたが、その後、同感染症に伴う行動制限の解除により観光入込客数が増加した結果、目標値を達成した。	
	目標 2	矢掛町主要施設における井原市民利用者数の増加	149人	H28	156人	R3	80人	163人	R6	68人	×	3 2	本指標は観光客を対象としたアンケート調査によるものであるため、調査状況により各年度の結果に変動があるが、計画期間を通じて目標値を達成できなかった。次期計画における道路ネットワークの構築により、自治体間の円滑な移動が促進され、本目標の実現が期待される。	
	目標 3	井原市における新規就農者数の増加	6人	H28	30人	R3	34人	42人	R6	53人	○		最終目標値は達成した。今後、道路ネットワークの構築により農作物の輸送の円滑化が図られるとともに、就農支援を継続することで、新規就農者の増加が見込まれる。	
②事業の実施状況に関する客観的な指標（KPI）の実現状況	重要業績評価指標（KPI）		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況			
	指標 1	矢掛町内年間宿泊客数（前年度）の増加	6,147人	H28	9,229人	R3	5,982人	10,000人	R6				7,930人	-
	指標 2	水車の里フルーツピアの売上額（前年度）の増加	39,000千円	H28	39,100千円	R3	42,421千円	41,000千円	R6				48,273千円	-
	指標 3	井原市におけるビオーネ及びシャインスカットの前年度栽培面積	67.8ha	H28	79.2ha	R3	73.5ha	82.0ha	R6				58.1ha	-
													計画期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響により観光入込客数が減少し、それに伴い宿泊客数も大幅に減少したが、令和4年頃から宿泊客数は回復傾向にある。最終年度の目標は未達成であったものの、次期計画において道路ネットワークの構築が進むことで自治体間の移動が促進され、広域的な観光客誘致や宿泊観光客の増加が期待できる。 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は営業日数等を調整したことから売上が一時的に落ち込んだが、その他の年度は指標を上回る売上額を確保しており、今後も安定した入込客の確保が期待できる。 令和5年に栽培面積の精査を行ったため、面積は減少したが、目標③の新規就農者の増加に伴い、農産物の輸送路である広域農道の早期完成が望まれている。	
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価								
			計画	中間年度（R3）	最終実績									
地域再生計画に記載がある特別の措置を適用して行う事業	町道 運動公園線	0.25km	0.00km	0.25km	令和6年度事業を令和7年度へ繰り越し、同年度末をもって改良事業を完了した。令和8年度中に舗装工事を完了し、供用開始する予定であり、矢掛町中心部と東部を結ぶ道路ネットワークの構築による事業効果の発現が見込まれる。									
	町道 辻堂線	0.15km	0.00km	0.00km	町道辻堂線の仁井屋橋については、橋梁の詳細設計における関係機関との協議に不測の日数を要したことや希少生物の保護移動等の対応が必要となったことから、当初計画より工程に遅れが生じ、計画期間内での事業完了には至らなかった。しかしながら、本路線は周辺住民の生活道路として、また地域間交流の観点からも重要な路線であり、早急な交通開放及び現道拡幅が求められていることから、次期計画において継続路線として位置づけ、早期の整備完了を図る必要がある。									
	広域農道 井原芳井地区	2.11km	0.00km	0.00km	計画期間内での完了を目指したが、令和2年度に発生した大規模地すべりへの対策を優先するとともに、計画断面の変更を行う必要が生じ、この区間の道路工事の再開が令和6年度まで遅延したため、計画期間内での事業完了には至らなかった。一方、地域では新規就農者が順調に増加し、農産物の円滑な輸送体制の構築は喫緊の課題となっており、未完成のままでは将来的に営農へ支障をきたすおそれがあることから、地域住民からの早期完成への期待も踏まえ、次期計画において本事業を継続路線として位置づけ、早期の整備完了を図る必要がある。									
その他の事業														
計画外で独自に実施した事業	道の駅山陽道やかげ宿整備事業	道の駅から中心市街地への導線となる町道及び地域振興施設の整備	令和2年度に道の駅「山陽道やかげ宿」が開業した。来場者数は、開業後4か月の令和3年7月に10万人、令和3年度中に24万人を達成するなど、多くの来訪者を集めている。道の駅は新たな観光施設であると同時に、矢掛商店街への玄関口としての役割を担っており、中心市街地に賑わいをもたらしている。さらに、令和2年度には町道本陣通り線の無電柱化も完了し、矢掛商店街の歴史的景観の向上が図られた。											
	広域観光連携事業	広域的な観光ツアーの開発、観光PR、観光パンフレットの作成	井笠広域観光協会では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、テイクアウトに取り組む飲食店のPRを目的として「井笠地域テイクアウトGuide Book」を発行している。また、スタンプラリーやフォトコンテストなど、観光客に井笠地域を広く訪れてもらうためのイベントを企画・実施している。											
	農業体験施設「水車の里フルーツピア」指定管理委託事業	新商品開発、収穫体験等、町外からの利用者を増やす取り組みを行う	水車の里フルーツピアは、平成25年4月から株式会社エンジオイファームによる指定管理を行っている。新商品の開発や果物・野菜の収穫体験の実施等、農業振興の拠点としての役割に加え、バーベキュー施設やカフェ施設、アスレチック設備の整備、定期的なイベントの開催等により、若年層やファミリー層、町外からの利用者の増加につながっており、集客力のある施設となっている。											
	矢掛町総合運動公園指定管理委託事業	各種スポーツ教室やイベントを企画し、町内外から多くの利用者を迎える	矢掛町総合運動公園は、平成28年4月から特定非営利活動法人やかげスポーツクラブによる指定管理を実施している。充実した設備を有し、幅広い年齢層が利用しやすい施設であることから、町内外から多くの利用者を集めている。											
	農業生産基盤と農村生活環境の整備	農山漁村地域整備交付金、中山間地域総合整備事業などを活用し、整備を行う	農山漁村地域整備交付金を活用し、中山間地域総合整備事業井原地区及び矢掛地区において、ほ場整備や畑かん施設の補修整備等を実施した。											
	新規就農者支援事業	移住支援、就農支援	ぶどう栽培の担い手となる農業実務研修生を毎年受け入れ、新規就農に向けた支援を行っている。 また、矢掛町では、住宅団地の分譲、定住促進助成金、空き家改修補助金、町営賃貸住宅等による移住支援や、相談窓口等による就農支援を継続的にを行い、新規就農者の確保・育成に取り組んでいる。											
④評価方法	事業主体及び第三者により、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。													
⑤事後評価の公表方法	岡山県及び矢掛町のホームページに掲載													
⑥計画全体の総合評価	3路線のうち2路線は現計画期間内に事業完了に至らなかったため、計画で目標としていた事業効果の発現は十分ではない。一方で、1路線の完成を迎えることにより、事業実施前に比べ道路ネットワークの一部が構築され、一定の効果は発現される。 また、道の駅「山陽道やかげ宿」の開業や新規就農者支援などの関連事業が一体的に進められており、観光交流、地域間交流、担い手確保の面で計画の方向性に沿った取組は進展している。 今後も、未完了の2路線は地域再生計画の目標達成に必要な路線であることから、次期計画において継続して整備を進める必要がある。													
⑦今後の方針等	本地域再生計画では、道整備交付金を活用して町道と広域農道を一体的に整備することにより、矢掛町と井原市の道路ネットワークを再編し、主要観光施設への集客や農産物の物流機能の強化、さらに地域間交流の促進や6次産業化による雇用創出・所得向上を図ることを目的としている。 これまで、道の駅「山陽道やかげ宿」の開業や各種関連事業の取組により、観光交流や地域間交流に一定の効果が見られる一方、3路線のうち2路線は計画期間内に完了しておらず、当初目標の達成には至っていない。 このため、未完了の2路線については、引き続き地域再生に必要な路線として位置付け、次期計画において整備を継続する。併せて、観光入込客数や新規就農者の増加といった地域の動向を踏まえ、地域の実情や要望に即した道路ネットワークの構築に向けた取組を進めて行く。													